近畿支部

近畿支部内化学系高専の檜舞台
―工業高等専門学校生 化学研究発表会―

はじめに

毎年，3月中旬に近畿支部内の化学系高専6校に在籍する学生12名が研究発表を行い，支部長から表彰・講評いただいている。近畿支部内化学系高専といっても，国立，府立，市立があり（私立はないが），各校の教育研究体制もそれぞれである。筆者は第11回目より世話人を引き継ぎ，支部の先生方や事務局に支えられてこれまで活動を行ってきた。今回は工業高等専門学校（高専）の現状と化学研究発表会の取り組みについて紹介したい。

化学研究発表会のはじまり

支部だより執筆の機会をいただいてから，化学研究発表会開催に至る経緯について，前世話人の吉村忠与志先生に話を伺った。詳細については省略するが，当時，本校校長であった生越久靖先生，近畿支部長，化学教育協議会議長隈弘夫先生及び事務局広澤修次氏らの多大なご尽力によるものである。また，当初より発表10分質疑5分の発表後，発表者に対して支部長賞として表彰状と盾が贈られている。余談ではあるが，Web上で過去のプログラムのPDFファイルを探しているうち，つい懐かしくて第4回以降を全部集めてしまった。

高専は中学卒業後に入学し，5年間で工学を中心とした専門教育を受け，20歳の卒業時に準学士の称号が得られる（本科）。さらに専攻科と呼ばれる2年間の課程があり，修了時に学士の学位を取ることができる。学校，学科により異なるが，本科卒業時に5～6割程度が就職し，進学先としては専攻科，長岡と豊橋にある技術科学大学，国立大学への3年次編入が多くを占める。また，専攻科修了後には大卒と同じく就職するか大学院に進学できる。しかし，大多数の中学生は普通高校，大学，大学院と進路を選択するため，高専制度や学生の専門性が社会的にきちんと認識されるための努力が必要となっており，これらが開催の大きな目的であったと考えられる。

工業高等専門学校と私

筆者が高専を知ったのは大学院博士後期課程在籍時であった。学位取得後の就職について調べているうち，大学に混じり高専の公募があることに気付いた。各教官が独立して研究室を構えることができ，学生との距離が近い点など，大学と異なる点が筆者には魅力的に映った。

博士後期課程修了後に九州大学有機化学基礎研究センター（現 先導物質化学研究所）成田研究室に博士研究員として3年間お世話になった後，辛くも福井高専に助手として採用された。研究室在籍時，公募応募時に成田先生には厳しくも温かくご指導いただき感謝している。

筆者は生物有機化学を専門として教育研究活動を行っており，着任時にはNMR，IR，MS装置等の有無と学生の気質が気がかりであった。幸い装置は一通り使用可能であり，順に更新している。当時は成績が悪くとも研究は真摯に取り組む学生が多かったが，最近は成績に関係なく，自分の貴重な時間を研究に充てて努力する学生は減っていると感じる。

今後の予定

化学研究発表会は各高専より成績，研究に優れた学生が推薦され，研究発表を行うため，研究に対する真摯な姿勢と発表内容の質の高さに驚くことも多い。また，学生の個性も強く存在感抜群である。支部の先生方の学生に向けた挨拶と講評に，高専教員として心を新たにする良い機会でもある。

来年3月14日（金）には第16回目を開催する予定となっている。ご興味のある方々は日本化学会近畿支部のホームページをご覧の上，参加いただきたい。

〔2013年度近畿支部幹事　松井栄樹
（福井工業高等専門学校物質工学科）〕

© 2013 The Chemical Society of Japan